



湖 議 第 16 号
令和 3 年 2 月 19 日

湖西市議会議長
加藤 弘己 様

福祉教育委員会
委員長 高柳 達弥



福 祉 教 育 委 員 会 中 間 報 告 書

本委員会で調査した件につき、会議規則第 45 条第 2 項の規定により報告します。

第 1 はじめに

現在社会は、国際化の進展、科学技術の高度化、情報化、価値観・生活様式の多様化、少子高齢化の進行など急激に変化している。

このように変化する社会において、生涯にわたって新たな知識、技術の習得・更新する生涯学習活動が重要になっている。自らの可能性の発見や自己実現などを学習活動に求めるようになっており、高齢者が自立意識を持ち学習し、その知識や能力を生かして社会で活躍するためや子どもの家庭における教育力を向上させる環境づくりやライフスタイルの多様化の進行で文化活動など生涯学習の場が広がっている。

また、スポーツ活動についても同様に重要であり、爽快感、達成感、連帯感や精神的な充足、健康の保持増進、青少年の人間形成に資するなど心身両面に働きかけるものでありそして、自己実現と生活の豊かさを求め各自の年令や体力、目的に応じた多種多様な活動が展開されている。

その中で湖西市では、明日の湖西市を創る“ひと”づくりの理念として、生涯学習推進計画とスポーツ推進計画が平成 26 年度（2014）から令和 2 年度（2020）までの基本的方向性が示されている。

今回、当福祉教育委員会では、市の目指す『住み続けたいまち』、『職住近接』においては、「生涯学習」、さらには子ども達への「スポーツ推進」による市の魅力を高めることが必要かつ重要なことであると考え、生涯学習推進計画とスポーツ推進計画の推進状況と課題について調査研究を重ね、次期計画策定の一助となることを期待し報告を行う。

なお、策定に於いてはコロナ禍の中で先進地調査等が十分にできなかったため提言に至らなかったことを申し添え報告とします。

第2 委員会及び勉強会における調査研究等の経過

開催日	内容
令和元年 5月 21日	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動の計画について ・重点目標について
令和元年 6月 24日	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の令和元年度主要事業について
令和元年 7月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標について
令和元年 8月 5日	<ul style="list-style-type: none"> ・湖西市の生涯学習について ・行政視察について
令和元年 8月 19日	<ul style="list-style-type: none"> ・当局からの報告事項について（教育委員会） ・行政視察について
令和元年 10月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・当局からの報告事項について（生涯学習推進計画、スポーツ推進計画の進捗状況について） ・行政視察について
令和元年 10月 17日	<ul style="list-style-type: none"> ・管外所管事務調査（愛知県豊川市）生涯学習に関する取り組みについて
令和元年 10月 18日	<ul style="list-style-type: none"> ・視察の振り返りについて
令和元年 11月 12日	<ul style="list-style-type: none"> ・視察報告書について ・今後の活動計画について
令和元年 12月 18日	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動計画について
令和2年 1月 16日	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動計画について
令和2年 2月 4日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度 事業進捗の確認について（教育委員会）
令和2年 4月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動計画について
令和2年 5月 22日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度主要事業の照会について
令和2年 6月 18日	<ul style="list-style-type: none"> ・主要事業の疑義照会について（教育委員会、健康福祉部）
令和2年 7月 22日	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の計画について

開催日	内容
令和2年 8月 7日	・湖西市のスポーツ推進に向けて
令和2年 8月 27日	・湖西市のスポーツ推進に向けて
令和2年 9月 16日	・スポーツ推進委員との意見交換について
令和2年 10月 12日	・スポーツ推進委員との意見交換会
令和2年 10月 23日	・意見交換会の振り返りについて ・今後の活動計画について
令和2年 11月 13日	・湖西市のスポーツ推進について（スポーツ・文化課） ・今後の活動計画について
令和3年 1月 7日	・委員会活動のまとめについて
令和3年 1月 19日	・中間報告書（案）について
令和3年 2月 5日	・中間報告書（案）について

※上記表中、今回の中間報告の内容に該当しない委員会及び勉強会における調査研究等の経過については掲載していない。

第3 調査研究等のまとめ

【生涯学習の推進について】

1. 湖西市の現況

生涯学習は、人々が生涯にわたって学ぶ学習で学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動など様々な場や機会に行う学習で生涯のいつでも、自由に学習機会を選択し学ぶことができるものである。その中でも社会教育は、人々の学習に対する需要の高まりと、その内容が多様化・高度化してきており特に重要である。そのため、本市の社会教育のあり方、推進体制の状況と課題について調査し以下のとおり報告する。

【湖西市生涯学習推進計画（期間：平成26年（2014）～令和2年度（2020））】

1. 基本理念

「明日の湖西を創る“ひと”づくり」

取り組む姿勢

ライフスタイルに応じた湖西市の教育は、成長する自己の学びの積み重ねを支えます。

“知りたい、学びたい、活動したい、運動したい”と学び続けるのは、あなたです。学びの積み重ねで成長するあなたを、みんなで支えます。

2. 基本目標

- ・生きる姿勢につながる生涯学習の推進
- ・ライフステージに応じた学びの提供
- ・成長、充実を促す学びの還元（理想的な学びのサイクルの浸透）
- ・学びを支える「協働」環境の構築

3. 計画の推進

教育委員会各課において基本目標・事業を掲げ、計画遂行としている。

- ・教育総務課

【目標】◎教育施策の円滑な運営

◎園児・児童・生徒が安全で安心して生活できる施設整備の充実

【重点】◎幼・少・中学校施設の整備

・ 幼児教育課

【目標】 ◎豊かな心と健やかな体を育む保育園・幼稚園教育の充実
～みんなとなかよし 楽しい保育園・幼稚園～

【重点】 ◎夢と信頼と充実感のある園づくり
・ たくましい体力と健康づくり
・ 生きる力の基盤づくり
・ 保護者への子育て支援

・ 学校教育課

【目標】 ◎自立と創造・共生を育む学校教育の充実
～健やか はつらつ 明るい小学校～
～自立の喜びあふれる 中学校～

【重点】 ◎夢と信頼と充実感のある学校づくり
・ 子どもが主体的に学ぶ授業づくり
・ 心の教育の充実
・ 国際化、情報化など社会の変化に柔軟に対応する教育の推進
・ 地域とともに歩む学校づくり
・ たくましい体力と健康づくり
・ 安全教育の推進

・ 社会教育課

【目標】 ◎子どもを健やかに育てる社会教育の充実
◎学習活動の環境を充実する生涯学習の推進

【重点】 ◎地域の教育力向上のため、学校、家庭、地域との連携
◎生涯を通じて主体的に学び、幅広い活動ができる環境の充実
◎地域の生涯学習拠点としての公民館活動の推進
◎青少年健全育成意識の醸成
◎青少年育成団体の活動支援

・ 文化課

【目標】 ◎まちの歴史の保護、保存、整備に力を入れる文化活動
◎文化、芸術に親しむ機会の提供と支援を行う活動
◎生活の中で歴史に触れる活動

【重点】 ◎歴史的文化財の保護、保存、整備
◎歴史的文化財、伝統芸能の活用

- ◎芸術の鑑賞機会と発表の場の提供による意識の高揚と活性化
- ◎新居関跡の保存整備

・ 図書館

- 【目標】◎学習活動環境の充実
- 【重点】◎情報拠点としての図書館運営の充実
 - ◎快適な施設環境を整えるよう施設の維持管理
 - ◎図書館活動の推進

・ スポーツ推進課

- 【目標】◎誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも親しみ、楽しむことができる生涯スポーツ文化の推進
- 【重点】◎スポーツ活動等の普及・推進
 - ◎施設・空間の環境づくり

4. 計画の策定

湖西市生涯学習推進委員会（学識経験者、フロンティアクラブ代表、自治会連合会代表、文化協会代表、中学校校長、小学校校長、社会教育関係者（公民館利用者代表・体育協会代表・図書館推薦者）により策定

5. 生涯学習講座の実績

	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
公共施設開催分	3 講座 延 3 回、41 人	6 講座 延 18 回、160 人	4 講座 延 20 回、203 人
西部地域センター	一般 15 講座 延 66 回、746 人	一般 14 講座 延 77 回、701 人	一般 18 講座 延 86 回、865 人
	こども 1 講座 延べ 2 回、34 人	こども 1 講座 延べ 2 回、33 人	こども 1 講座 延べ 1 回、38 人
北部地区多目的 研修施設	一般 6 講座 延 31 回、301 人	一般 11 講座 延 63 回、602 人	一般 12 講座 延 57 回、510 人
	こども 1 講座 延べ 3 回、48 人	こども 1 講座 延べ 3 回、105 人	こども 1 講座 延べ 3 回、57 人
南部地区構造改善 センター	一般 8 講座 延 42 回、468 人	一般 10 講座 延 55 回、521 人	一般 14 講座 延 81 回、885 人

	こども 1 講座 延べ 3 回、102 人	こども 1 講座 延べ 3 回、99 人	こども 1 講座 延べ 3 回、93 人
--	--------------------------	-------------------------	-------------------------

6. 社会教育施設の利用者数

	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
西部地域センター	47,658 人	41,775 人	47,735 人
北部地区多目的 研修施設	12,737 人	14,665 人	15,239 人
南部地区構造改善 センター	14,489 人	16,153 人	19,789 人
中央図書館	139,204 人	140,218 人	142,281 人
新居図書館	88,613 人	96,389 人	95,419 人

2. 管外所管事務調査の概要

(1) 愛知県豊川市：令和元年 10 月 17 日

目的：湖西市の生涯学習推進計画について、先進地の取組みを視察し、本市の生涯学習を推進するうえでの参考とするため

【豊川市第 3 次生涯学習推進計画（期間：平成 28～令和 7 年度）】

1. 基本理念

「学びが創る ひと・まち・未来」

第 6 次豊川市総合計画のまちの未来像「光・緑・人・輝くとよかわ」や教育・文化分野の目標「あらゆる世代の人が豊かな心を育てているまち」の実現を目的としている。

2. 基本目標

豊かな人生を自らが築く学習社会の確立

3. 施策の方向性

ア. 学びを育むきっかけづくり

イ. 学びを通じた人づくり

ウ. 学びを生かしたまちづくり

上記の方向性に沿った施策体系を定め、学びの循環を促している。

4. 計画の推進

ア. 推進ネットワークづくり…庁内検討部会、他機関、市民連携

イ. 計画の進行管理…PDCA サイクル、主要施策の評価指標

5. 計画の策定

社会教育委員（15 名、構成委員：青少年ボランティア会代表、おやこ文化の会代表、公民館連絡協議会代表など各会実務者）による策定委員会を設置している。

6. 庁内の連携

関係各課（教育委員会各課、介護高齢課、子育て支援課、市民協働国際課、環境課）の構成による庁内検討会議によって推進計画内容の検討を行い策定している。

7. 計画の成果と評価

毎年度、庁内検討部会で進捗状況を検証し、今後の事業展開の方向性を検討している。その状況、結果を社会教育委員が確認し計画の見直しを行っている。

8. 豊川市の生涯学習の事業体系

地域生涯学習事業、市域生涯学習事業、広域生涯学習事業、とよかわオープンカレッジがあり自分に合った内容、会場、時間のものを選択し学習できる状況になっている。

- ①地域生涯学習事業は、最寄りの公民館、4館・生涯学習会館、5館・地区市民館などで学べる。各生涯学習会館には、中学校区ごとに生涯学習指導員その下に推進委員が配置され講座案内「地域生涯学習だより」が発行されている。
- ②市域生涯学習事業は、市内各施設を活用して市民を対象に「生涯学習ガイドブック」の事業を展開している。
- ③広域生涯学習事業は、近隣の大学やカルチャーセンター等学習の場の案内を提供している。
- ④とよかわオープンカレッジは、行政主導ではなく、教える側（講師）と学ぶ側（受講生）の共同運営で市民自らが企画運営する各種講座を平成21年度より開校している。組織は、平成24年に一般社団法人化し事務局長、主任臨時職員で講座運営を行う。行政はサポート役で事務局支援をしている。受講生は、年々増加しプリオ生涯学習会館はじめ市内講座会場確保が課題となっている。

※平成30年度開校実績…講座数345、受講者数4,633人

9. 市民の生涯学習満足度を高めるための工夫

民間事業者との連携により人材、ノウハウ、財源の活用や市民主体の講座運営など生涯学習事業を行政主体から民間主導の活動へ誘導、現在一般社団法人、「とよかわオープンカレッジ」があり活動している

10. 広報の方法 とよかわ生涯学習ガイドブック

市内各施設を活用し、市民を対象とした「市域生涯学習事業…文化・芸術、育児・福祉・健康、趣味・教養・情操など7つの分類・ジャンルで180余の事業」が掲載され好評を得ている。発行は、年2回（前期・後期）編集・発行は、生涯学習課でガイドブックは、市内公共施設で無料配布、内

容もホームページで公開している。

多様な分野・事業を掲載するための編集は、生涯学習課が庁内各課や市内民間団体等（文化協会、社会福祉協議会、観光協会など）に照会し情報を作成している。

11. 所感

- ・社会教育委員が生涯学習推進計画の計画策定から進行管理、改善、見直しなどにに関わり委員の声が反映され行政との協働体制が良好に働いていると感じた。
- ・生涯学習事業の活動に対し PDCA により進行管理が適切に実行され成果の実証がされている。
- ・生涯学習事業に対する取り組みを、行政主体から民（市民、各種団体、企業）が担う施策変更に取り組むことが、これからの生涯学習社会のあり方と考える。
- ・生涯学習事業が地域・市域・広域・オープンカレッジとに分担され効果的、効率的に事業推進がされ見習うべきであると感じた。
- ・生涯学習に取り組む職員が長く同じ仕事（10年以上）に携わっており、専門性や意識の高さ、地域の生涯学習に精通しており、熱意・勤勉さを感じた。
- ・生涯学習に精通した人材（職員）も民間から採用しており、そのキャリアが活かされていると感じた。



▲とよかわオープンカレッジ絵画講座の見学

3. 湖西市の生涯学習における課題の考察

1. 計画策定者の関わり

先進地では、計画策定者が現場に携わっている人達であり、市民が生涯学習を学ぶ機会を増やすために何が必要か、日頃の課題から計画へ結びつけている。

2. 庁内検討会

計画策定後は、業務を遂行する行政として、関係する部署と連携をしながら、計画の進捗状況を確認し、課題をフィードバックする庁内検討会等の体制整備が必要である。

3. 生涯学習の場の創出とその形態について

先進地においては、各中学校区に生涯学習指導員と推進委員が配置され、それぞれの地区ごとに学習メニューを考え、公民館がフルに活用されている。また、講師側、受講者側のニーズを合致させることで運営する生涯学習講座の形態も存在している。

行政だけで生涯学習の機会創出を担うことには限界があるため、民間の力を活用し、各地区に存在する公民館をいかに活用していくのかを考えていく時期にある。

4. 専門職員の育成について

生涯学習の現場を担う適正な人材を確保するためには、専門職員の存在が必要不可欠である。リーダーシップを取るべき市職員の異動について、短い年数で異動させるのではなく、専門家を育てる考え方もこれからの時代には必要だと考える。

5. 広報について

当市でも、先進地と変わらず、ライフステージに応じた様々な学びの機会の場（事業）を実施している。また、民間団体による事業も実施されている。

しかしながら、その事業は、それぞれの担当分野ごとに広報されているのみで、一元的に分かりやすいものにはなっていない。先進地では、様々なメニューをガイドブックにまとめ、市民が探しやすいような工夫がなされていた。

市民が学びたいと考えたときに、どこの場でどのような事業が行われているのか、分かりやすい広報が当市にも必要である。

【スポーツの推進について】

1. 湖西市の現況

近年、青少年の運動・遊びの機会や場が減少し、その体力形成に大きな影響を及ぼしていると言われていています。また、中高年については、健康づくりや生きがいづくりの視点からスポーツに対する必要性が高まっています。そのため、誰もが、それぞれのライフステージに応じていつでも気軽にスポーツ活動に取り組むことが出来るようスポーツに親しむ機会、場所の提供や健康・体力づくりの促進、団体育成や指導者の確保等支援体制が必要と考えられる。

【スポーツ推進計画（期間：平成26年（2014）～令和2年度（2020））】

1. 基本理念

「明日の湖西を創る“ひと”づくり」

取り組む姿勢

ライフスタイルに応じた湖西市の教育は、成長する自己の学びの積み重ねを支えます。

“知りたい、学びたい、活動したい、運動したい”と学び続けるのは、あなたです。学びの積み重ねで成長するあなたを、みんなで支えます。

2. 基本目標

- ・誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも親しみ、楽しむことができる生涯スポーツ文化の推進

3. 計画の推進

- ・ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

【具体的な取組】

- (1) 誰でも手軽にできる健康づくり事業に努めます。
- (2) スポーツ推進委員とともに各種スポーツ活動の企画運営を行い、生涯スポーツの推進に努めます。
- (3) スポーツ教室や市民大会を開催し、生涯スポーツの推進に努めます。
- (4) 生涯スポーツ活動の基礎をつくるため、中学生のスポーツクラブ活動の推進に努めます。
- (5) 学校体育施設を地域住民に開放し、スポーツの推進に努めます。
- (6) 誰でも気軽に参加できるスポーツイベント「コーちゃんフェスティバル」を開催し、スポーツの普及推進に努めます。

- (7) 静岡県市町対抗駅伝競走大会に参加し、競技力の向上に努めるとともに、スポーツに対する市民の関心を高めます。
- (8) 市民駅伝とジョギング大会を開催し、市民の交流と健康づくりに努めます。
- (9) 日本トップレベルの選手を招き、室内棒高跳大会を開催し、選手の育成と競技力の向上に努めます。

・豊かなスポーツライフを支える環境づくり

【具体的な取組】

- (1) 一人でも手軽にできるウォーキングや散歩、体操など運動しやすい環境づくりに努めます。
- (2) 湖西運動公園、みなと運動公園、北部地区運動広場、梶田多目的運動広場、新居社会体育施設、勤労者体育センターを、安全・安心で快適に利用できるよう、施設の維持管理に努めます。
- (3) アメニティプラザを安全・安心で快適に利用できるよう、指定管理者と連携して、施設の維持管理と運営の充実に努めます。
- (4) 新居体育館整備事業として、新体育館の建設を行い、市のスポーツ活動の新たな拠点とします。

4. 計画の策定

湖西市スポーツ推進審議会（明湖会代表、新居高等学校校長、体育協会理事長、自治会代表、子ども会代表、高齢者代表、小学校体育連盟代表校長、中学校体育連盟代表校長、スポーツ推進委員代表）により策定

5. 各種事業・施設利用者等実績

	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
高齢者向けスポーツ大会	9 大会 1,695 人	9 大会 1,863 人	10 大会 1,896 人
ニュースポーツ講習会	1,206 人	1,279 人	1,430 人
デカスポテニス大会	1 回 44 人	2 回 98 人	2 回 110 人

スポーツ教室	10 教室 166 人	10 教室 195 人	10 教室 219 人
スポーツ大会	18 大会 3,768 人	18 大会 4,111 人	17 大会 4,101 人
ジュニアスポーツ クラブ	5 競技 8 クラブ 145 人	5 競技 8 クラブ 151 人	5 競技 8 クラブ 121 人
学校体育施設開放 運動場・体育館他	3,521 回 100,301 人	3,896 回 100,583 人	4,010 回 95,913 人
コーちゃんフェス ティバル	484 人	456 人	524 人
湖西市駅伝・ジョ ギング大会	駅伝 96 チーム 804 人、ジョギング 86 人	駅伝 99 チーム 891 人、ジョギング 89 人	駅伝 72 チーム 648 人、ジョギング 102 人
室内棒高跳記録会	103 人（中 36 人、 高・一 67 人）	84 人（小 3 人、中 35 人、高・一 46 人）	—
湖西運動公園、他 4 施設 利用者	203,781 人	207,278 人	196,501 人
アメニティプラザ 利用者	284,771 人	298,432 人	312,357 人
新居体育館利用者	82,707 人	82,917 人	79,522 人

2. 子ども達の現状

昭和 60 年頃から、子どもの体力・運動能力は低下傾向にあり、子どものスポーツ離れ・2 極化の傾向は、現在の社会において解決すべき問題となっている。湖西市においても、大規模校である鷺津地区の野球少年団でさえも、一つの学年では団員が足りずチームが作れないという現状から、同様の問題を抱えていると推測され、この対策をきちんと考えていく必要がある。

(1) スポーツ離れの原因

- ・外で遊ぶ機会の減少・習い事の増加。
 - ・ゲーム機器の普及など娯楽が多様化している。
 - ・親の生活状況の変化（就労形態の変化や余暇の過ごし方の変化によるスポーツへの関心の薄れなど）。
 - ・スポーツの楽しさが見出せない。
- など、複合的な要因が絡まっていると推測される。

(2) 子どもたち向けのスポーツ教室の状況

現在の湖西市においては、子どもにスポーツを習わせようと考えたとき、そのほとんどが少年団などのチームに入ることから始めないといけない。

少年団に入らなくても、学べるスポーツ教室の現状は以下のとおりである。

ア 市主催

- ・硬式野球（中学生向け）

※水 19 時～21 時、土 17 時～21 時 全 10 回 3,500 円

- ・少年卓球

※第 2・4 土 17 時～19 時 全 16 回 3,000 円

イ アメニティプラザ ※平日 15:30～19:00 平均約 4,000 円/月

- ・水泳教室 ・ダンス教室 ・チアダンス教室
- ・体育教室 ・バドミントン教室 ・リズム教室

ウ 新居体育館 ※平日 15:30～19:00 平均約 2,500 円/月

- ・野球教室 ・体操教室 ・新体操教室
- ・器械体操教室 ・バドミントン教室 ・体育教室
- ・かけっこ教室 ・親子あそび

3. 管内所管事務調査の概要

スポーツ推進委員会：令和2年10月14日

子どもがスポーツに触れる機会を増やすための方策、委員会が実施している事業や日頃感じていることについて把握し、課題を抽出するため、意見交換を実施した。

【出された意見（抜粋）】

(1) 子ども達向けに実施している教室等の状況

- ・直接的な教室はない。
- ・9月～11月 各小学校放課後こども教室へ週1回（各校月1～2回）、デカスポテニスを教えている。また、デカスポテニス大会（年2回）にて、親子で参加できるようにしている。

(2) 子ども達とスポーツとの関わりについて日頃感じていることや課題、企画案

- ・親が送迎できる子はどこでもスポーツをやることができる。
- ・子どもたちに体を動かすことは楽しいと伝えられる場をつくるかが非常に大事。
- ・コーちゃんフェスタについて、家族で楽しんでもらえるよう取り組んでいるが、親に連れてきてもらえない子どもが参加できないことが課題。
- ・休日に親子で簡単なスポーツに触れる・楽しむというイベントを出来れば良いと考えるが、大々的にやるには人手もお金も必要。

(3) 子どものスポーツ離れを防ぐために考えていること

- ・子どもの頃からきちんと自分の体を知ることが重要。
例えば、走り方を教えて、少しでもタイムがあがると子どもたちは運動が面白くなる。そういう体験をできる状況を作っていく必要がある。
- ・親に対して子どもが体を動かすことがいかに大事かを、啓発をする必要がある。

(4) ひとり1スポーツ推進のための行政やスポーツ協会との連携

- ・スポーツ協会も、スポーツに関するイベントを一緒にやりたいという意向は持っているが、協会が抱えているイベントも多く、協力が得られていない現状もある。スポーツ協会を切り離して活動を考えるということはない。

(5) 市や議会に望むこと

- ・市民が健康であれば市は潤うと思うので、体づくり・健康づくりを考え、市民を大事にする市になってほしい。



スポーツ推進委員との意見交換



デカスポテニス体験風景

4. 湖西市の子どもたちへのスポーツ推進における課題の考察

1. 親子への啓発

- ・運動が得意でなくても楽しめることや体を動かすことは楽しいと伝えられる場（事業）が重要である。
- ・子どもだけでなく、保護者に対しても、子どもたちが体を動かすことがいかに重要かを啓発することも必要であり、そういった視点での広報が不十分だと考える。

2. 手軽に参加できる子ども向けスポーツ教室の増加

- ・市内のスポーツ教室の状況は、指定管理をしているアメニティプラザ・新居体育館においては、それなりに充実していると言える。しかし、一方で開催時間を見るとそのほとんどが平日の夕方であり、その時間帯に子どもを送迎できる者がいないと参加しづらい状況ともいえる。
- ・市主催の子ども向け教室は僅かに2つであり、そのうち初心者でも気軽に参加できる教室は少年卓球1つのみである。

近隣他市の状況を見ると、ほんの一例に過ぎないが下記の様な参加しやすい教室が開催されている。

● 休日にスポーツ教室の開催。

例：豊橋市 サッカー教室（2か月計全7回・3,000円、小学生、日曜日、体育協会主催）

● 平日夜間開催の教室

例：藤枝市 バレーボール教室（全8回3,600円、小3～6、木曜日19:00～20:30、スポーツ協会主催）

● 低金額の教室

例：磐田市 ジュニアスポーツ教室（月2回・1,000円、年中～6年生 スポーツ協会主催）

● 期間を定めた教室

例：豊川市 サッカースクール（半年間、1,000円/月、3歳～小3、日曜日、サッカー協会主催）

- ・スポーツ協会と連携し、手軽にスポーツに触れることができる教室の増加（主催団体への補助でも）、教室終了後に活動の継続を望む子どもたちへの受け皿づくりが必要ではないかと考える。

3. 子どもが運動のために利用しやすい施設について

令和元年10月より市内スポーツ施設の値上がりがなされた。また、それに伴い、勤労者体育センターなどの一部施設で卓球室などの設備の専用区分が設定された。その結果、これまでの様に勤労者体育センターで子どもたちが卓球を楽しむ姿が見られなくなったという実態がある。

卓球台が長時間専用利用されてしまうと、子ども達が利用できない状況があるとのことであるため、早急に見直しが必要だと考える。

また、昨今の子どもたちが体を動かして遊ぶ機会が減少している要因の一つに、場が無いということも言われている。子ども達が個人で運動できる場所の整備や各運動施設で子ども達が利用しやすい料金設定の検討を望みたい。

4. デカスポテニス（ニュースポーツ）の推進について

・湖西市発祥のデカスポテニスは、誰でも手軽に参加できるスポーツとなっている。市のスポーツを推進するためには、この競技を市として盛り上げること、その施策として、子ども達への積極的なアプローチが必要だと考える。

各学校に用具等（ラケットとボール）を配備し、体育の授業や放課後の時間などに子ども達に競技に触れてもらうことが有用ではないだろうか。

・健康教室事業やスポーツ教室などとのタイアップにより、関係人口を増やすことも検討する必要があると考える。

5. スポーツ推進委員の活動について

・直接子どもへ教える機会が少なく、子どもたちのスポーツ離れに対しては、推進委員としての関わりが薄い現状である。

・誰もが手軽にできる運動としてニュースポーツを推進することが、現在のスポーツ推進委員の主な活動となっているが、そこに特化しすぎている感は否めず、ニュースポーツ以外によるスポーツ人口の掘り起しも期待される。それぞれの得意分野を活かした初心者向けの運動教室を開催するなどの方法も一考すべきではないだろうか。

・スポーツ推進計画において、「スポーツ推進委員とともに各種スポーツ活動の企画運営を行い、スポーツを通して、市民の健康づくりや地域コミュニティを形成するための活動の充実に努める。」としているが、行政側と委員側とで意識の乖離がある。行政として、推進委員に具体的に何を求めるのかを伝えることが必要だと考える。

6. スポーツ推進計画策定者の関わり

計画をより実行性の高いものにするためには、計画策定者が現場に携わり、日頃の課題を計画へフィードバックすることが重要だと考える。計画策定者である湖西市スポーツ推進審議会に求める役割の明確化を期待する。

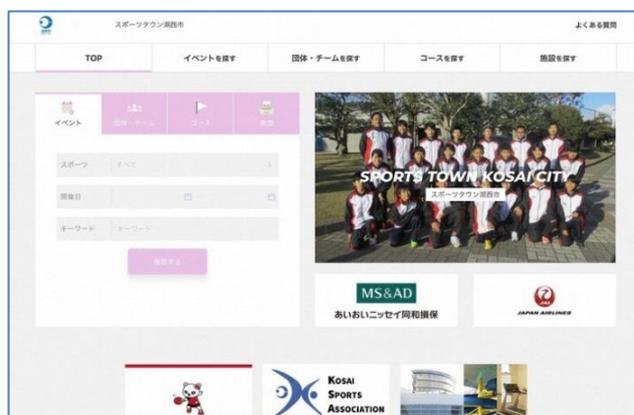
7. コーちゃんフェスタについて

- ・市の都合上、予算を子ども会につけているだけだが、スポーツ推進委員として自分たちの活動が奪われた感覚があると感じられる。市としては、どのようなイベントを求めているのか。
- ・子ども会ではボランティア、スポーツ推進委員では報酬が発生する、アンバランスな面もあるため、見直しも必要ではないかと考える。

8. スポーツ活動のPR

- ・市民がスポーツに触れる機会を増やす為には、当然のことながらスポーツ活動のPRが重要である。

令和2年11月に市が提携を結んだ㈱アールビーズとの連携により、市内で計画しているスポーツ情報集約サイトにアップして情報発信し、市民参加者の増加や活性化を図ることが期待される。



スポーツ集約サイト「スポーツタウン湖西市」

9. その他

- ・子どもに限らず誰でももっと気軽にスポーツが楽しめる現場の整備が必要と思われる。スポーツサイドとして、球技種目だけでなくウォーキングやハイキングなど健康づくりに役立つ活動メニューも必要ではないかと考える。
- ・機会があれば、スポーツを始めたいと思う人も潜在的にいると考えられるので、スポーツ団体や指導者の拡充、種目の充実も目指し、達人録などの有効活用を求めたい。

第4 まとめ

【生涯学習の推進について】

・生涯学習は、一人ひとりが自己の実現と自らの生活の向上を目指すため、各人が生涯にわたって自発的に学習するための機会の整備・推進するための取り組みが必要である。

1. 生涯学習施策「生涯学習推進計画」を展開する組織体制を確立すること。
生涯学習計画の推進・進捗を図るため生涯学習推進委員会の機能役割を見直し、明確にすること。
2. 生涯学習の場・機会の創出を図ること。
 - ・誰でもいつでもどこでも学べるように、生涯学習事業・講座の案内の一元化と学習ジャンルの拡充を図ること。
 - ・生涯学習には民間（企業・市民・各種団体等）との協働で市民の生涯学習満足度を高めること。
 - ・学習環境整備のため生涯学習推進員や生涯学習指導委員の育成、設置を図ること。

【スポーツの推進について】

・スポーツ推進は、健康づくり、体力づくり、競技力の向上等とそれぞれの視点からスポーツに対する必要性を認識し、それぞれのライフステージに応じて取り組むことのできる機会・場所の提供やスポーツ団体組織の育成や指導者の確保等が必要である。

1. スポーツの場・機会の創出を図ること。
スポーツ活動団体の活動状況やスポーツ教室、講座情報等の提供により、市民が様々なかたちでスポーツに親しむ機会の創出が必要である。
2. 子ども達には体を動かすことの楽しさを、保護者には子どもが運動することの重要性を伝える広報を十分に行うこと。
3. スポーツ推進委員の役割を明確にし、誰でも気軽に参加できるスポーツの推進を図ること。
4. デカスポテニスの普及啓発に努めること。
体育の授業や昼休み、健康教室・スポーツ教室等での体験の機会を増やすこと。
5. スポーツ活動が楽しめる環境の整備や体育施設の充実を図ること。
スポーツ施設の計画的な施設改修に取り組むこと。

【参考資料】

- ・湖西市教育振興基本計画（2013～2020）
- ・湖西市生涯学習推進計画（平成26年）
- ・湖西市スポーツ推進計画（平成26年）
- ・とよかわ生涯学習ガイドブック（平成31年度前期版）
- ・とよかわオープンカレッジ（令和元年度後期版）
- ・豊川市生涯学習まるごとナビ（平成31年度版）
- ・第3次豊川市生涯学習推進計画（平成28～37年度）
- ・中央教育審議会 子どもの体力向上のための総合的な方策について（答申）
- ・第2次高浜市生涯学習基本構想 生涯学習基本計画【後期】（2018～2021）
- ・川根本町公営塾
- ・NPO法人磐田市スポーツ協会
- ・NPO法人藤枝市スポーツ協会
- ・公益財団法人豊橋体育協会
- ・豊川市スポーツ協会
- ・NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブ（半田市）
- ・NPO法人高津総合型スポーツクラブ SELF（川崎市）